

令和3年度

年報

2021

横浜国立大学
地域連携推進機構
成長戦略教育研究センター

年 報

CONTENTS

目次

令和3年度

2021

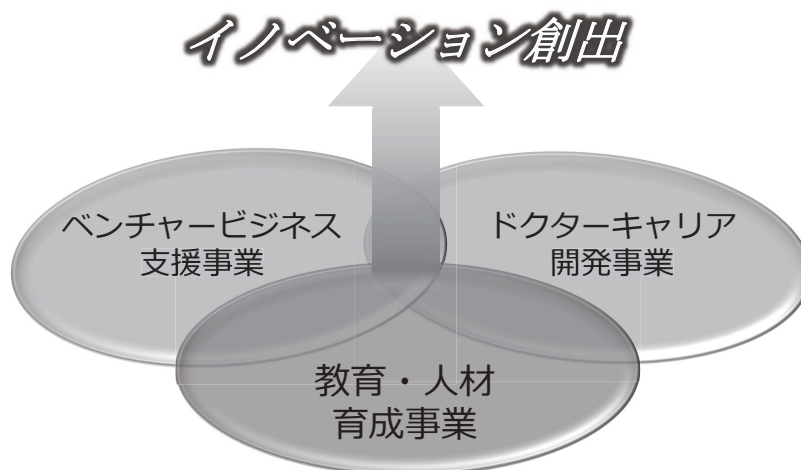
I.	起業家型人材育成・教育	2
II.	教育人材育成事業	3
	1. 学部生へのキャリア教育	3
	(1)アントレプレナー入門(担当:教授 為近 恵美)	3
	(2)経営者の役割と従業員の役割(担当:非常勤講師 井手 美由樹)	5
	(3)実践新商品企画(担当:非常勤講師 湯沢 雅人)	6
	(4)神奈川のみらい(担当:客員教授 船場 ひさお)	8
	(5)研究開発論(担当:教授 為近 恵美)	9
	(6)アートマネジメント(担当:非常勤講師 永澤 桂)	11
	(7)海と地域のつながりと活性化 (担当:客員教授 船場 ひさお、非常勤講師 水井 涼太)	13
	2. 大学院博士課程前期学生へのベンチャー教育(副専攻プログラム)	14
	(1)イノベーションと課題発見Ⅰ(担当:教授 為近 恵美)	14
	(2)イノベーションと課題発見Ⅱ(担当:教授 為近 恵美)	16
	(3)神奈川県を取り組む技術課題(担当:教授 為近 恵美)	17
	3. 講義以外の人材教育	19
	(1)JST-SCORE 事業への参画	19
	(2)シュタインバイス大学日本研修	22
III.	ベンチャービジネス支援事業	23
	1. ベンチャー支援施策『フェーズⅠ』、『フェーズⅡ』	23
	2. ベンチャー支援採択者その後の活躍	24
	3. 他のベンチャー支援プログラムとの連携	24
IV.	ドクターキャリア開発事業	25
	1. 活動全般	25
	2. キャリアパスフォーラム	26
	3. キャリアセミナー「博士キャリアの現実と就職戦略」	27
	4. 共催イベント	28
	5. コンソーシアム活動	28

I . 起業家型人材育成・教育

当センターでは、イノベーション人材の育成を主なミッションとし、下記の3つの事業に取り組んでいる。

1. 教育・人材育成事業
2. ベンチャービジネス支援事業
3. ドクターキャリア開発事業

教育・人材育成事業によりイノベーション創出に資する起業家型人材を育成し、そこから生まれる学生ベンチャーを支援する。また、より多くの博士人材が社会で活躍できるようキャリア開発支援をすることで、高度なイノベーション人材を輩出し、これにより地域や社会に貢献することを目指している。



成長戦略教育研究センターの取り組む事業

Ⅱ．教育人材育成事業

当センターでは起業家型人材の育成を目標に、学部や大学院での教育を行っている。学部生の起業家意識を醸成し、社会課題の解決のための起業を目指す人材や経営者目線で新しい事業分野を開拓できるような起業家型人材の育成のための科目と、大学院生向けには、より高度な知識をベースにした研究開発型イノベーション人材育成のための科目を提供している。特に当センターの役割として、将来のキャリアを広く意識し、幅広い視野を持つ人材を育てるという観点から、まずは『アントレプレナー入門』により起業を意識する人材教育を、そして企業の中で経営的観点を持って活躍する人材育成のための『経営者の役割と従業員の役割』、また企業内でのクリエイティブな活動によりイノベーションにつなげるような人材教育のための『実践新商品企画』などを中心に7科目を開講した。そして、より専門性の高い大学院教育においては、理系の大学院生を主な対象として、将来イノベーション創出に貢献できる人材を育てるための教育として、社会の仕組みを知り、イノベーションや起業について考える機会を与える『イノベーションと課題発見Ⅰ』、次のステップとして、自らの研究シーズをビジネスに結び付けて考えさせる『イノベーションと課題発見Ⅱ』、そしてさらに、『イノベーションと課題発見Ⅲ（ベンチャーインターンシップ）』で、実際にベンチャー企業などでのインターンシップを通じて、社会における自分の研究テーマの位置づけを知り、それに基づいたイノベーションの可能性を考えさせる教育を行っている。これら3科目を全て履修することで、起業家人材養成教育プログラム（副専攻プログラム「ベンチャービジネス」）を提供している。

1. 学部生へのキャリア教育

（1）アントレプレナー入門（担当：教授 為近 恵美）

「アントレプレナー入門」 春学期開講 火曜 4 時限、履修者 48 名

【履修者のプロフィール】

	教育学部	経済学部	経営学部	理工学部	都市科学部	計
1 年生	1	0	23	13	4	41
2 年生	0	1	0	4	0	5
3 年生	0	0	0	1	0	1
4 年生	0	0	1	0	0	1
計	1	1	24	18	4	48

本講義は、成長戦略教育研究センターのミッションである起業家型人材育成のための体系的教育の一環として、全学部生を対象に全学教育科目として開講している。単に講義を聴

くだけの受け身の授業ではなく、グループディスカッションやビジネスプランの作成といったグループワークを行う、参加型の授業（アクティブラーニング）を取り入れている。

【講義スケジュール】

No.	テーマ・講師	No.	テーマ・講師
1	オリエンテーション、起業に関する考え方アンケート	9	ビジネスモデルキャンパス（BMC）
2	アントレプレナーとは？	10	グループワーク（中間発表準備）
3	起業とは？税理士のベンチャー起業と経営 （(株) ipoca 代表取締役社長 一之瀬 卓氏）	11	新規事業プランニング 中間発表
4	新規事業プランニング：世の中の課題を探そう	12	トレンドとマーケティング（TREND UNION Edelkoort East(株)）代表取締役 家安 香氏）
5	新規事業プランニング：課題の掘り下げ	13	デザインシンキング、発表資料作成
6	社会課題からの起業（兼業） （ジョージ・アンド・ショーン(同) CEO 井上 憲氏）	14	最終発表会（プレゼン）
7	新規事業プランニング：他班の事業を批評する	15	まとめと講評、最終アンケート
8	事業経営に必要な知識		

講義の目的は、必ずしも実際に起業を目指す学生だけではなく、企業に就職する場合でも、組織の中で常にビジネスを意識し、経営者の視点で業務を遂行することのできる人材、それによりイノベーションに結び付けることのできる人材育成を目指している。講義の最後に履修者にアンケートをとった結果、学生のうちにもしくは卒業後に起業したいと考える学生が 31%、一旦就職後に独立を考える学生も合わせると 62%に及び、安定した企業での終身雇用を求める学生は 7%に満たないという結果となった。講義を受けたことで起業に対する意識が変わったかという問いに対して、変わったと答えた学生が 4 割近くいたことから、この講義の影響が大きかったと言える。



講義風景



グループワークの様子

(2) 経営者の役割と従業員の役割 (担当：非常勤講師 井手 美由樹)

春学期開講 履修者 236 名

学部	経済	経営	理工	都市科学	教育学部	合計
1 年	79	0	27	12	1	119
2 年	5	10	38	1	2	56
3 年	0	27	12	5	0	44
4 年	5	7	3	0	2	17
合計	89	44	80	18	5	236

この講義は、学部生を対象として、産業人材育成支援を目的に、企業で実務経験のある教員が開講している。2021 年度の授業は以下の三つの観点で構成された。

①株式会社の株主、経営者、従業員の役割、及び会社組織

会社で働く者の立ち位置を考え確認できる知識を取得することを目的とした。

②雇用契約、人事制度、社会保険制度など会社ですぐに役立つ知識の習得

企業の経営企画、総務、人事、経理分野の業務について具体例を示しながら解説した。

③実務家に聴くビジネス社会の抱える課題、それらへの取り組み

従業員と経営者、両者の視点を持ち、社会性を養うことを目指している。ビジネス社会で起こりうる様々な課題について、それぞれの分野の専門家をお招きして講義をお願いした。社会保険労務士の方には働き方改革やメンタルヘルス、海外勤務経験のあるコンサルタントの方には海外で働く楽しさや苦勞、経営者の方にはビジョンの重要性、財務・監査の専門家の方には会社のお金の流れやその確実性について、弁護士の方には会社経営に関わってくる法律を中心にご講義いただいた。

最終レポートでは、各々が最も興味を持ったテーマについて、思考を深めることを課した。参考文献や統計データを調査し、考えを論ずる過程を通して、事実と自分の意見を明確に区別して述べる能力醸成を目指した。本科目が社会に出るにあたり、社会人として最低限の知識習得、自分の意見を表現できる能力育成の一助になれば幸いである。

【講義スケジュール】 (*は実務家による講演)

回	テーマ	回	テーマ	回	テーマ
1	オリエンテーション	6	キャリアとメンタルヘルス (*)	11	会社の成績表の見方(*)
2	仕事の種類と働き方の多様化	7	海外で働く (*)	12	様々な法人の会計と監査 (*)
3	従業員の役割	8	株式会社の成り立ち	13	会社を取り巻く法律 (*)
4	会社の規則	9	経営者の役割	14	起業とは
5	社会保険の仕組みと働き方改革	10	SDG s の考え方に基づく経営 (*)	15	会社の承継と継続的發展

(3) 実践新商品企画（担当：非常勤講師 湯沢 雅人）

本授業は、企業等において新商品を企画する際に必要となる知識やスキルを習得してもらうことを目的としている。そこで、戦略やマーケティングに関する経営学の基礎知識を交えながら、商品を企画・開発する手順を解説、さらに演習にて受講者がそのプロセスを仮想的に体験することで、学術的理論と実務を行き来しながら商品企画の要点を理解できる場を提供し、理論に裏付けされた新商品企画の遂行能力を育成することを目指した。

授業のコンセプトは「商品企画の楽しさや醍醐味の仮想体験」とした。まず、前半の講義では、商品開発を取り巻く事業やマーケティングに関する知識をレクチャー、特に商品の企画・開発に不可欠なマーケティング・マインド、すなわち顧客を理解することの重要性と顧客価値を創造する際の着想法に重点を置いた。そして後半の講義では、商品の企画・開発プロセスを順を追って解説する一方で、履修者は並行して、各自が題材として設定した商品につき、講義で学んだ知識や手法を用いてそのプロセスをトレースする形で演習を進め、模擬的に実務を体感してもらった。

履修者は206名だったが、3分の2にあたる136名が経営学部生、さらにその9割が1年生であった。経営学部では1年次から経営戦略論やマーケティング論を履修できることから、理論やフレームワークの解説が重複していたようだが、本授業では実例を交えた適用法として紹介していたことから、履修者の反応は「復習の場となる」あるいは「定着の機会となる」といった好意的なものであった。

続いて、研究・開発の立場で「商品」と近い位置にある理工学部生が2割強にあたる46名を占めたが、こちらは2年生以上が大半であった。そして、残りの1割強にあたる24名が経済学部生(1年生)および教育学部・都市科学部生(2年生以上)となっており、いずれも少数派であった。

【講義テーマ】

- 1 イン트로ダクション(本授業の目的とゴール・全体の枠組み)
- 2 事業およびマーケティングと商品の役割
- 3 顧客価値とは
- 4 商品開発プロセス
- 5 商品企画の手順
- 6 事業ドメインと環境与件
- 7 戦略の策定(市場・競合・自社分析と商品戦略)
- 8 顧客の理解
- 9 商品コンセプトの策定
- 10 価値創出の具現化①：仕様の検討と設計
- 11 価値創出の具現化②：開発とプロトタイピング
- 12 顧客へのデリバリー
- 13 商品企画に求められる体制
- 14 商品開発の成否の評価
- 15 まとめ：商品企画を円滑に遂行するための要点

【履修者の分布】

	経済学部	経営学部	理工学部	教育学部	都市科学部	計
1 年	12	122	7	0	0	141
2 年	0	8	26	2	1	37
3 年	0	1	11	4	4	20
4 年	0	5	2	1	0	8
計	12	136	46	7	5	206

コロナ禍により、対面での講義が叶わず、グループワークによる協業やディスカッションの機会を設けることができなかったのは残念であったが、履修者数の制限を設けることなく、希望者全員に受講してもらえたことは、オンデマンドによる講義故の利点であった。

また、授業に対するアンケート調査の結果から、前述した授業の内容、および演習を含めた進め方は、概ね狙い通りに機能したと思われる。

一方で、90 分の講義時間を一方通行のレクチャーで埋めることから講義内容の分量が多くなってしまったこと(アンケート調査では 4 割の履修者が「多い」「やや多い」と回答)、提出課題に対するフィードバックをタイムリーにできなかったこと、講義テーマの特質から対面でのグループワークを望む声があることは、来年度に向けた課題である。

【履修者の声(アンケート調査への回答より)】

- ・オンデマンド形式であっても、講義による知識・理論の学習と演習による簡単な商品企画の実践の両方を体験できたため、得られることも多く、経営学や商品企画に対する興味が深まった。[理工学部 化学・生命系学科 2 年以上]
- ・授業内容も授業形式も面白かったです。自分で決めた一つのテーマで授業内容に沿って演習を進めていくというのが楽しかったです。[経営学部 1 年]
- ・毎講義、商品開発における重要な要素を知ることができ、自分の商品が現実化していく過程がとても面白かったです。[理工学部 機械・材料・海洋系学科 2 年以上]
- ・自分は経営学部所属なので既知のフレームワークなども多くありましたが、実際に手を動かしてみる経験ができたのはよかったです。[経営学部 1 年]
- ・全体を通して、顧客のことをここまで考えたことは少なく、とてもよい機会になったと思います。[理工学部 数物・電子情報系学科 2 年以上]
- ・新商品や新ビジネスは流行や競合他社に勝つためにはどうすればよいかを考えるものだと思っていたが、商品にどのような「価値」を持たせるかということの方が重要なのだと学ぶことができた。[経営学部 1 年]
- ・商品の価値に対する新しい考え方を得ることができた。[経営学部 1 年]
- ・こんなにも一つの企業や商品について考えた事がなかったので新鮮な気持ちになった。[都市科学部 環境リスク共生学科 2 年以上]
- ・期末レポートのテンプレートが商品開発の一連の流れになっており、復習しながら進めることができました。[経営学部 1 年]
- ・私は、現在ベンチャー企業でマーケティングのインターンをしているのですが、この授業は商品開発のみならずマーケティングにおいても使える知識を学べたので、私にとっては超実践的だった。[経済学部 1 年]
- ・大学でしか学ぶことができないような内容だったので、新鮮で有意義な時間を過ごせたと思う。[経営学部 1 年]

(4) 神奈川のみらい（担当：客員教授 船場 ひさお）

平成 29（2017）年度に締結した神奈川県との包括連携協定の具体的な取組みの一つとして全学教養教育科目「神奈川のみらい」を開講している。大都市と地方の双方の特性を有し「日本の縮図」ともいえる神奈川の現状と課題について学生が理解を深め、神奈川・日本・グローバルに今後のあり方を考えていくことを目的としている。

例年、実際に各領域で取組みを進められている現職の神奈川県職員の方々より、課題と解決に向けた取組みについて具体的なお話をいただいていたが、令和 2（2020）年度はコロナ禍のために休講を余儀なくされた。

令和 3（2021）年度も、大変な状況の中ではあったが、県職員の方に担当いただく講義を 10 回に絞り、オンデマンド授業として開講することができた。県職員による授業の収録は大学の会議室で行い、別室で聞いている担当教員と Zoom でつなぎ、一通りのお話をいただいた後、学生が疑問に思うと予想されるポイントや、さらに話して欲しい話題などを担当教員がインタビューする形で進めた。履修生に対しては、授業支援システムのアンケート機能を活用して、県から学生に聞いてみたいことに対する回答を得たり、毎回の講義に対する感想や質問を課すなど、履修生数の多いオンデマンド授業の中でも双方向性を生み出すように努めた。授業スケジュールを表 1 に示す。

履修生は 399 名。表 2 に示すように学部・学年は多岐にわたっている。

表 1 授業スケジュール

	日程	講義内容	担当
1	4月12日	<オリエンテーション>	大学
2	4月19日	プロローグ1：今、地方で起こっていること	大学
3	4月26日	プロローグ2：神奈川と海	大学
4	5月10日	神奈川県の概要と将来の目指す姿	政策局 総合政策課
5	5月17日	神奈川県のSDGsの取組み	政策局 SDGs推進課
6	5月24日	地域コミュニティの創生の取組み	政策局 未来創生課
7	5月31日	ともに生きる社会かながわ憲章	福祉子どもみらい局 共生社会推進課
8	6月7日	活力と魅力あふれるまちづくり～都市マスタープランと地域別計画～	県土整備局 都市計画課
9	6月14日	神奈川教育ビジョンの着実な推進（インクルーシブ教育を中心に）	教育局 インクルーシブ教育推進課
10	6月21日	持続可能な社会の実現	環境農政局 環境計画課
11	6月28日	ロボットと共生する社会の実現	産業労働局 産業振興課
12	7月5日	最先端医療の推進、ICTの活用	政策局 ヘルスケア・ニューフロンティア推進本部室
13	7月12日	健康寿命の延伸、未病を改善	健康医療局 健康増進課
14	7月19日	<レポート>	大学
15	7月26日	まとめ（「海と地域のつながりと活性化」に向けて）	大学

表 2 履修生の内訳

	4年	3年	2年	1年	合計
経済	1	16	10	27	54
経営	9	60	4	49	122
理工	11	66	47	0	124
教育	3	0	1	32	36
都市科学	2	1	32	28	63
合計	26	143	94	136	399

(5) 研究開発論（担当：教授 為近 恵美）

本授業の目的

本授業の目的は、学生に研究開発者としてのキャリア形成を考える機会を与えることである。大学院に進み、大学の研究者あるいは企業の研究開発職に進むキャリアを考えている理工学部2年次以上を主な対象に、これから関わっていく大学における研究と、その後に関わる可能性のある企業での研究開発について、その共通部分や差異を知り、これからの研鑽に役立ててもらうことを主な目的としている。

授業の内容

講義の前半では、研究開発とはどのようなものか、大学と企業の研究は、どのような点で共通であり、どのような違いがあるのか、また研究成果から生まれるイノベーションはどのようなものか、いくつかの事例を交えて様々な角度から解説していった。講義の後半は、将来、ビジョンを持って自らテーマ設定ができるような研究者、技術者になるよう未来社会のビジョンについての討論を行い、個々人が自身の研究分野における新たなアイディアを発表した。また、最後は、「技術が支える30年後の未来社会」をテーマに各自の考えをまとめるレポートを課した。

本授業の構成

本講義の進め方は以下の通りである。

1. オリエンテーション（本講義の目的、概要、進め方）
2. イノベーションとは？何のために研究開発をするのか？
3. 企業における研究開発
4. 大学における研究開発
5. 企業における研究開発の歴史（ゼロックスを中心に）
6. 社会はテクノロジーの変化とどう向き合うか
7. 研究開発に活用する特許
8. 研究開発に活用する特許（実習編）
9. 特別講義（シリコンウエハから見る AI 社会と半導体）
10. イノベーションと未来社会（1）導入
11. イノベーションと未来社会（2）討論
12. イノベーションと未来社会（3）発表
13. イノベーションと未来社会（4）グループ発表振り返り
14. レポート作成
15. まとめ（研究開発従事者の資質とキャリア形成）

今年度の振り返り

今年度は、コロナ禍の影響がまだ残り、オンデマンドでの講義が多い中、大学の方針に基づいて、途中から対面での講義とした。この影響もあって、人数は激減し受講者数は4名のみとなったが、研究開発に本気で興味を持つやる気のある学生が集まり、少数精鋭の授業となった。少人数であることを活かして、実際に iPhone を解体した実物に触れたり、未来社会の一環としてメタバースを実感してもらおうと、一人ずつ VR ゴーグルを装着し、VR 体験を行ったりした。

※受講学生：理工学部 4 名（2 年生 3 名、3 年生 1 名）

履修後のアンケートでは、以下のような感想が寄せられた。

- ・「研究開発論」の授業を受ける前までは研究者(研究職)に就くのは不安定でとてもハードルが高いキャリア形成だとなんとなく考えていた。しかし、この講義で実際に企業で研究開発をしていた方々のキャリアを見て自分にも研究者のキャリアは選択肢としてあるのではと考えるようになった。
- ・第一回のアンケートに応じて、講義内容を変えてくださったこと(企業の研究者と大学の研究者の違いなど)が良かった。
- ・自分の将来やりたい研究をグループ内で共有し合ったり、最先端の研究内容を講義で聴くことが出来たり、自分の将来を深く考える機会があったことが良かった。
- ・色んなことを知ることが出来ました。企業での研究の様子、特許、キャリアなど、2 年のうちに知ることが出来るのはほんとにありがたいと思います。学部で就活しないにせよ、就職活動の前に知ることによって進路についてより具体的にイメージができ、就活になって焦らず準備することができると思います。



特別講義（シリコンウエハから見る AI 社会と半導体）



企業における研究開発の歴史（ゼロックスを中心に）

(6) アートマネジメント (担当：非常勤講師 永澤 桂)

2021 年度秋学期開講 履修者 304 名

学部	経済	経営	理工	教育	都市科学	合計
1 年	0	76	81	40	0	197
2 年	3	4	33	0	18	58
3 年	2	7	18	5	12	44
4 年	1	2	0	0	2	5
合計	6	89	132	45	32	304

本講義は全学教育科目として、芸術の運営、マネジメントに関心のある学生を対象に、実務家による講義を中心とした内容である。今年度はすべての回がオンデマンド対応となった。初回は、永澤桂による美術史の観点から、芸術とパトロンの歴史、現代芸術の需要と社会状況についての講義で、2回目からは表のとおりである。今年度、新たに加わった分野は能楽、文化政策であった。伝統芸能に触れる機会がほとんどないことが、学生の現状であろうが、講義に高い関心を持ち、講師の中森先生のお話の主旨をよく理解していたことが印象的である。文化政策については、横浜市役所で長年文化振興の部局で専門的に活動されている鬼木先生にご登壇頂いた。横浜市中で展開された文化活動について、掘り下げたお話であった。本講義では、芸術家／芸術運営の側からのお話がほとんどであるが、行政の側からの芸術への取り組みについてお話を伺えたことは学生たちにとって貴重な機会となったようである。

今年度も多彩な外部講師を招聘することができた。毎回講師が変わるため、一つの問題について深く掘り下げるという目的の講義とは異なるようでありながら、「芸術と社会を結びつけるものとは」「社会のなかの芸術の意味とは」といった大きな問をすべての先生方が共通して持っており、それだけにとどまらず、欠かすことのできない大切な問題として位置づけておられた。全体の打ち合わせをしたわけではないが、共通認識であったことが幸いであり、全体としてのまとまりもそうした意識によって生まれたと考えられる。

すべての回が、実務、それを支える準備、夢、困難だったこと、何によって達成できたか、といった視点が盛り込まれており、学生たちにとっては実りある内容だったともに、感染症拡大による教育享受の難しいなかで、勇気をもらえる内容となったのではないかと考えている。

対面授業ができない中で、学生にも工夫をしてもらったり、不便を感じたり、時にわかりにくい内容となってしまったりといったこともあったかもしれないが、常に前向きに受講してくれたことが結果としてよい授業の成立に結びついていった。今年度課題となったことは、今後改善できるよう努めたい。

本講義に関わってくださったすべての方々に心からお礼申し上げます。ありがとうございました。

【2021 年度講義実績】

回	テーマ	講 師
1	オリエンテーション／芸術におけるパトロンの歴史	永澤 桂
2	音楽業界の現状と発展	渡辺俊幸 作曲家・洗足学園音楽大学客員教授
3	俳優による演劇ビジネス／俳優自身が企画・運営・資金集めをして公演する	五大 路子 俳優・横浜夢座座長
4	まちづくりと芸術文化～東京・丸の内と横浜都心部を中心に～	恵良 隆二 横浜市芸術文化振興財団専務理事
5	Arts と生きる—Arts は人に何をもたらして来たか、何をもたらし得るのか	西巻正史 トップアンホール プログラミング・ディレクター
6	美術館における教育 美術館と来館者を繋ぐ取り組みを考える	藤田 百合 女子美術大学助教、学芸員
7	「日常」への回路—美術鑑賞がひらく可能性	坂本恭子 横浜美術館学芸員
8	オーケストラの運営と展望、コロナ禍のさきにあるものとは	別府一樹 日本フィルハーモニー交響楽団
9	ミュージアム・デザイン・スタディーズ—ミュージアム空間でデザインのできる	齋藤名穂 建築家／デザイナー UNIDESIGN 主宰
10	オペラ歌手を経営する～演奏家の視点による社会との交流	藤木大地 カウンターテナー歌手／洗足学園客員教授
11	自治体文化行政の今—行政が文化を取り扱うことの意味	鬼木和浩 文化政策／横浜市役所
12	これからの古典芸能の生き残り方	中森貫太 能楽師
13	音楽業界の構造変化	前野知常 音楽プロデューサー／洗足学園音楽大学教授
14	地域社会で芸術をうごかす	田島悠史 芸術経営者／芸術プロデューサー
15	芸術はマネジメントできるのか？・総括	梅津庸一 美術家／・永澤桂

(7) 海と地域のつながりと活性化 (担当: 客員教授 船場 ひさお、非常勤講師 水井 涼太)

2020 年度秋学期から全学年を対象とする全学教養教育科目として開講した「海と地域のつながりと活性化」は、今年度 2 回目の授業を開講した。本学は 2018 年 5 月に南足柄市、2020 年 9 月に小田原市と包括連携協定を締結しており、本講義はその具体的な取り組みの一つとして位置づけられる。

本講義は、海に関する全般的な知識と社会とのつながり・環境問題の理解を出発点に、丹沢の山々から相模湾まで多様な地勢を持ち、観光地でありかつ高齢化・過疎化している、海とのつながりの強い小田原、南足柄市を中心とした神奈川県西部エリアの実態と現地事業者・プレーヤーによる取り組み、その他国内外の事例などを学び、その上で県西エリアの海と地域の特色を生かしたブランドづくりや商品アイディアなど、地域活性化の取り組みをグループワークによって立案することによって、グローバル／地域の海・環境問題／持続可能社会を考える視座とアプローチの習得を実践的に進めるものである。

昨年度は Zoom を用いたリアルタイムのオンライン方式の授業としたが、今年度はコロナ禍が落ち着いた状況にあった 11 月以降は対面で実施することができた。履修学生は 12 名と少なかったが、最後までほぼ全員が無遅刻無欠席で、大変意欲的に授業に参加する様子が見られた。最終的に 3 チームがまとめたアクションプランは“かなにしハウス～おひとりさま社会人をターゲットに、県西地域の関係人口を増やそう～”“小田原のカレー屋さん”“南足柄の魅力再発見！～打倒金太郎～”という、学生らしい視点の生かされた興味深いものである。最終日のアクションプラン発表会はオンラインで開催し、小田原市役所の海浜水産課や南足柄・小田原地域のプレーヤーも参加し、有意義な意見交換を行うことができた。

「海と地域のつながりと活性化」

■全学教養教育科目／全学年対象／2 単位／水曜日 3 限

■英文名 Linkage and Revitalization of the sea and its regional society

■担当教員：水井涼太、船場ひさお

■授業内容：

- ・オリエンテーション／これまでの県西エリアでの活動 ・SDGs の理解
- ・海と人類の海洋利用と課題／日本の海
- ・かながわの海と山 -相模・県西地域の自然と営み-
- ・小田原の現状と漁業・水産加工業などについての紹介（小田原市海浜水産課）
- ・南足柄市の現状と未来（南足柄市シティプロモーション）
- ・小田原の地域活性化活動（ノンブランド小田原・矢郷史郎様・鈴木大助様）
- ・南足柄の地域活性化活動
- （一般社団法人 Japan Hunter Girls/グリーンバスケットジャパン株式会社 加藤かい様）
- ・地域ブランドをつくり継承する（鈴廣かまぼこ様）
- ・企業の CSV と地域活性化の事例 ・海を活かした国内外の地域進行事例
- ・講義内容を踏まえたチーム・ディスカッション
- ・海と地域のつながりと活性化に向けたアクション・プラン発表

2. 大学院博士課程前期学生へのベンチャー教育（副専攻プログラム）

本副専攻プログラムは、大学院生を対象としたもので、下記の3科目6～8単位で構成される。

「イノベーションと課題発見Ⅰ、Ⅱ（各2単位、計4単位）」、「都市イノベーションと課題発見Ⅰ、Ⅱ」は、ベンチャーマインドを持った起業家型人材育成を目指したアントレプレナー教育の一環として、主に理系大学院生を対象に開講している。学内外の起業関連エキスパートを講師として座学を行うと共に、「ベンチャー企業訪問調査」やそれをまとめた発表するグループワーク（Ⅰ）と「ビジネスプラン策定」（Ⅱ）を課し、コミュニケーション力、広い視野からの問題解決力、プレゼンテーション力の向上を図っている。

また、「イノベーションと課題発見Ⅲ」、「イノベーションと起業Ⅱ」（2単位）、「都市イノベーションと起業Ⅱ」（4単位）（ベンチャーインターンシップ）は、インターンシップ科目として、ベンチャーあるいは、中小企業の実態に触れると共に、企業が実際に抱える課題の解決方法を実習する機会を提供している。上記の3科目の履修者には、副専攻プログラム「ベンチャービジネス」の修了証を発行している。

（1）イノベーションと課題発見Ⅰ（担当：教授 為近 恵美）

【講義スケジュール】春学期第1ターム 月曜 4,5限

No.	4限（14:40～16:10）	No.	5限（16:15～17:45）
1	オリエンテーション／イノベーションと課題発見／ベンチャーインターンシップ	2	税理士がするベンチャー起業と経営 講師①：一之瀬 卓（㈱ipoca 代表取締役社長）
3	研究者からの起業～夢の実現のために～ 講師②：増田 建一 （動物アレルギー検査㈱ 代表取締役社長）	4	社会課題と起業（ソーシャルベンチャーとは） 講師③：水井 涼太 （NPO 法人 ディスカバーブルー 代表理事）
5	起業家訪問調査について グループワーク	6	社会環境の変化とイノベーション 講師④：牛島 慶一（アーンスト・アンド・ヤング ジャパンエリア CCaSS リーダー）
7	～VUCA World 時代のイノベーションと 21 世紀人財 世界の外部環境変化とともに進化する R&D 講師⑤：阿部 剛士（横河電機㈱ 常務執行役員）	8	グループワーク ～ 起業家インタビュー ～
9	半導体技術がもたらしたビジネスの競争優位の変化 と今後必要になる人材 講師⑥：清水健（アクセンチュア㈱）	10	グループワーク ～ 起業家インタビュー ～
11	研究を産業につなぐ仕組みを作る 講師⑦：佐野 卓郎 （㈱リパネス 取締役執行役員 CLO）	12	グループワーク ～ 調査内容のまとめ ～
13	多様性を生かし想像を生む 「すり合わせ文化と日本型能力主義」 講師⑧：堂免 恵（㈱悠志創造 代表取締役社長）	14	グループワーク ～ 調査内容のまとめ・発表準備 ～
15	起業家訪問調査の発表		

今年度は、コロナ禍の影響で、双方向 Zoom によるリアルタイムオンラインで開講した。履修学生数は 35 名であった。

(内訳：環境情報学府 1 名、理工学府 19 名、都市イノベーション学府 15 名)

その他、外部講師回のためのオンデマンドでの聴講希望者が若干名おり、これを許可した。

本講義は、主に理工系の大学院生向けに、自分の研究テーマをベースにビジネスを考えられるようなベンチャーマインドを持った起業家型人材育成のためのものである。ベンチャー起業や企業経営に関して民間の第一線で活躍しているエキスパート人材、社会環境を的確に捉えて、イノベーションを起こそうとしているような人材等に講義（講演）をお願いし、講義や討論から学ぶ座学パートと、自ら考えて行動する力を培うためのグループワークによる実習パートに分かれる。座学パートでは、講義を聞いた後に講師を交えた討論や自分なりのまとめを行い、講師へフィードバックする。グループワークの実習パートでは、実社会で課題解決に挑む起業家にヒアリング調査を実施し、内容を発表した。

グループワークでは、3～4 人の 9 チームに分かれて、起業家調査を実施した。今年も昨年同様オンラインでのヒアリング調査となった。まず、チーム内でディスカッションを重ね、各人が興味のあるベンチャー企業を選び出し、その中からヒアリングする企業を決定し、メールや電話などでアポイントメントを取り、Zoom などを用いたオンラインインタビューを試みた。第一希望の企業にすぐ決まるチームや、メールになかなか返信がもらえず、苦戦するチームもあったが、最終的には全チームが無事にインタビューを終えることができた。この過程で、メンバー内で議論を重ね、アポ取りやディスカッション、まとめを通じて自ら考え、学び行動する力をつけることが出来た。

全体を通じて、昨年の評判を聞きつけてか、今年は、比較的多くの学生が受講した。

(2) イノベーションと課題発見Ⅱ (担当: 教授 為近 恵美)

【講義スケジュール】春学期第2ターム 月曜 4,5 限

No.	4 限 (14:40~16:10)	No.	5 限 (16:15~17:45)
1	【オリエンテーション】 授業の進め方、ビジネスプラン作成について	2	【オリエンテーションの続き】 【演習】他者に自らの専門性を伝える
3	【レクチャー】顧客への価値提供 講師: 湯沢 雅人氏 (成長戦略教育研究センター リサーチャー)	4	【演習】専門分野の可能性 自らの専門分野で、研究成果を活かして 事業化された事例
5	【レクチャー】 企業における新規事業	6	【個人ワーク】 研究シーズのビジネス化
7	【レクチャー】 A VUCA World 時代のイノベーションと 21 世紀人財 講師: 阿部 剛士氏 (横河電機(株) 常務執行役員)	8	【グループワーク・討論】 ビジネスプラン発表と議論
9	【レクチャー】起業家の条件 講師: 呉 雅俊 (株TNP パートナース代表取締役社長)	10	【全体討論】 事業化プラン発表とブラッシュアップ
11	【レクチャー/個人ワーク】 事業採算・会社決算/ビジネスプランブラッシュアップ	12	【個人ワーク】 ビジネスプランブラッシュアップ
13	【レクチャー】大学発ベンチャー 講師: 小倉 里江子氏 (横浜バイオテクノロジー(株) テクニカル・リーダー)	14	【個人ワーク】 発表準備
15	【発表】ビジネスプラン最終発表		

本年度の受講学生は、理工学府 4 名、都市イノベーション学府 5 名の計 9 名であった。

本講義は、この前段となる「イノベーションと課題発見Ⅰ」で学んだベンチャー企業への理解をふまえて、自らの専門分野におけるシーズをもとにしたビジネスプラン作りを行う。作成したビジネスプランについて、他の受講生や教員、ベンチャー育成の専門家とディスカッションをおこなうことにより、他分野からの視点、知見をプランに組み込んで、プランのブラッシュアップを図る。最終的に、より現実的で実現可能な事業化プランになるよう進めていく。

例年、人数に応じて、個人でのプラン作成する場合と 2 名 1 組のチームでプラン作成する場合があるが、今年度は学生の主体性に任せて、自由に選択させた。その結果、3 チームと 2 名の計 5 つのビジネスプランが出来上がった。各学生、チームのビジネスプランは、以下の通り。

- ・子育て世代向けモビリティサービス
- ・足腰の悪い人向け歩行・移動サポートする装備
- ・一般向け 3D プリンタの造形サービス CAD アプリ
- ・3D ルートガイダンスアプリ
- ・VR 内見システム

(3) 神奈川県を取り組む技術課題（担当：教授 為近 恵美）

本講義は、神奈川県（自治体）と連携して、県が取り組む研究課題を理系学生にわかりやすく解説するものである。これにより、首都に隣接して研究開発機関などの多い神奈川県の特徴ある産業や技術に関する理解を深めるとともに、自身の専門分野と社会とのつながりを意識させ、学生自らが卒業後の進路について考える時に役立てることを目的としている。

特に自分が学ぶ神奈川県という地域には、どのような技術的な課題があり、どのようなアプローチでこれを解決するための研究を行っているのかを知ること、何故、その研究が必要なのかを意識して、自分自身の研究テーマについても、その社会的意義や位置づけを考える力を身につけさせる。実社会に役立つ研究とはどのようなものかを知ること、自身の大学院での研究テーマがどのようにしたら社会に還元できるのかを考えて、自らの研究テーマを俯瞰する力を身につけるよう指導している。

毎回の講義では、必ず感想レポートを書かせ、講義内容を自分の頭で反復整理し、研究課題がどのように役立つのか、自分の研究分野との接点はないかなどを考えさせるようにした。この形式は、これまでも行ってきたが、講師の方にもフィードバックしている。また、最終的に県の課題に対する提案のレポートを課した。単なる提案にとどまらず、理系の研究者として研究計画の立案になるよう指導した。

例年は、10回の講義と5コマ分を2回にまとめた形で各機関への現地訪問実習を行っているが、昨年と同様に、今年度もリアルタイム Zoom によるオンライン開講とし、実習も全てオンライン実習とした。現地訪問では、移動にも時間がかかるため、4カ所のうちから2カ所（各2.5コマ分）を選択して実習に参加するが、今年度は、オンラインということで、一カ所の実習は、1コマ分とし、5回のオンライン実習に全員が参加する形とした。実習と言ってもオンラインという制限があるため、実際に学生が手を動かして参加する形は難しい。環境科学センターの実習では、現地に取材に行き、センター内の施設や実験装置、実際に水質検査などを行っている様子を撮影して、講義の際は、講師がそのビデオを見せながら解説した。

【講義スケジュール】秋学期 水曜3限

No.	日程	内容	担当
1	10/6（水）	オリエンテーション 神奈川県の科学技術総合政策	総合政策課／ 成長戦略教育研究センター
2	10/13（水）	水産技術センターの取り組む技術課題	水産技術センター
3	10/20（水）	産業技術総合研究所の取り組む技術課題	産業技術総合研究所 (KISTEC)
4	10/27（水）	衛生研究所の取り組む技術課題	衛生研究所
5	11/10（水）	温泉地学研究所の取り組む技術課題	温泉地学研究所
6	11/17（水）	農業技術センターの取り組む技術課題	農業技術センター

7	11/24 (水)	畜産技術センターの取り組む技術課題	畜産技術センター
8	12/1 (水)	環境科学センターの取り組む技術課題	環境科学センター
9	12/8 (水)	自然環境保全センターの取り組む技術課題	自然環境保全センター
10	12/15 (水)	オンライン実習 1 : 農業技術センター	農業技術センター
11	12/22 (水)	オンライン実習 2 : 環境科学センター	環境科学センター
12	1/5 (水)	オンライン実習 3 : 産業技術総合研究所(海老名本所)	KISTEC 本所
13	1/12 (水)	オンライン実習 4 : 衛生研究所	衛生研究所
14	1/19 (水)	レポート	成長戦略教育研究センター
15	1/26 (水)	講義まとめ・討論	成長戦略教育研究センター ／総合政策課

履修者：理工学部 4 年 5 名、理工学府 修士課程生 28 名

今年度は、学部 4 年生の先取り履修者が 5 名参加した。

3. 講義以外の人材教育

(1) JST-SCORE 事業への参画

2021 年度、科学技術振興機構（JST）社会還元加速プログラム（SCORE）大学推進型（拠点都市環境整備型）に本学が共同機関として参画する「横浜プラットフォーム」が採択された。この横浜プラットフォームにおいて本学を始め、横浜市立大学・神奈川大学・関東学院大学が共同で開講した ALL 横浜街ごとキャンパス「YOXO カレッジ」の本学提供講座について報告する。

【開催概要】

日程 2021 年 10 月 13 日～2022 年 2 月 19 日まで、全 8 講座・19 講義

講座 イノベーター養成講座 （1 講座・5 講義）

デジタルイノベーター支援人材養成講座 （1 講座・5 講義）

起業に関する基礎・実践講座 （6 講座・9 講義）

講師 中川 郁夫 （大阪大学招聘教授・一般社団法人 DeruQui 理事）

宮崎 淳 （株式会社オレンジテクラボ 創業者・CEO）

佐藤 博 （HERO Consulting 代表 & PENDROID 創業者）

山田 敏哉 （ヤマダリサーチ+デザイン 代表）

【参加者数】

19 講義にのべ 257 名の受講生が参加した。（下記参照）()内は本学 学生数

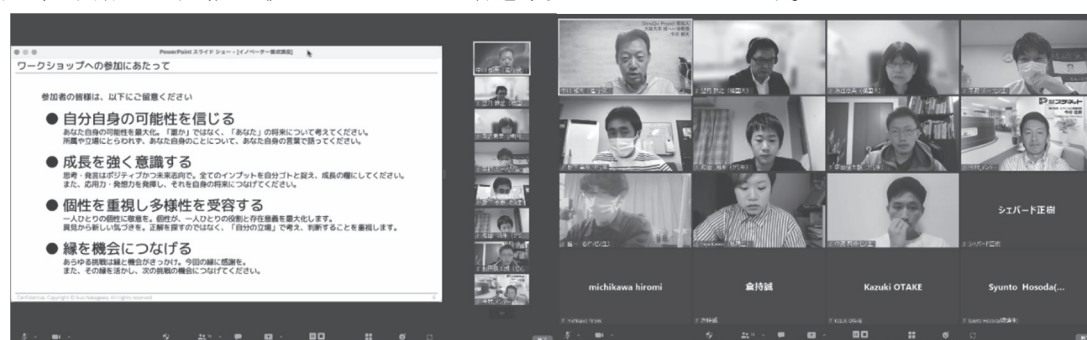
		第 1 回	第 2 回	第 3 回	第 4 回	第 5 回	合計
イノベーター養成講座		13	16	12	11	11	63(41)
デジタルイノベーター支援人材養成講座		14	11	10	14	8	57(7)
起業に関する基礎・実践講	アントレプレナー概論	32	13				45(8)
	ビジネスモデルデザイン	21	18				39(11)
	起業のためのピッチ演習	4	6				10(3)
	起業のための知財概論	17					17(3)
	デザイン思考と UX 概論	14					14(2)
	デザイン思考と UX 実習	6	6				12(2)
合計							257(77)

【各講座の実施状況】

●イノベーター養成講座

本講座は、成長と挑戦の機会を創り出す学生向けのアクセラレーションプログラムである。ワークショップスタイルで挑戦者に求められる大局観、本質思考、感性・感受性などの資質を引き出し、目指すべき社会像を描きビジョンと行動計画を、熱意を持って語れる人材の輩出を目指す。

5週にわたってオンラインワークショップが開催され、当初言語化が覚束なかったゼミ生が最終ピッチでは堂々とプレゼンするなど、受講による成長は目を見張るものがあった。また、受講後のアンケートで参加者の NPS（ネットプロモータースコア）64 と評価も非常に高く、本講座の開催は初めてであったが有意義なものであったと思う。

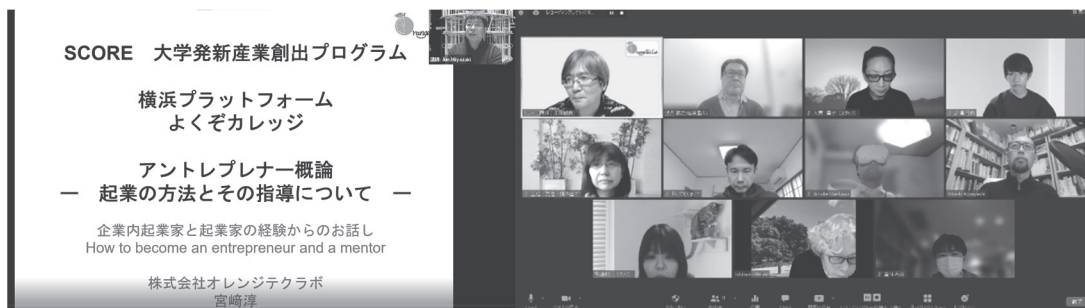


●デジタルイノベーター支援人材養成講座

本講座はデジタルイノベーターを輩出するために、イノベーション創出のステップを体験しつつ、デジタル人材に求められる資質・能力を理解し、どのような視点で支援すべきかを考える社会人向け講座である。具体的な DX（デジタルトランスフォーメーション）事例からイノベーション創出のステップを学べるなど、講義の密度は高く、学習効果が高い講座であった。

●起業に関する基礎・実践講座

本講座は起業に関心のある人、将来起業したい人、起業家人材の育成に関わりたい人に向けて、起業に関する基礎知識から実践のための方法論について、レクチャーと演習を交えて学習するプログラムである。センター及び YOXO カレッジのホームページを活用し、他大学にも働きかけて幅広く受講生を募った結果、参加者の 45%が横浜国大以外の三大学の学生であった。社会人（教職員含む）は 32%であった。また、受講者アンケートによる満足度（5段階評価）は全講座平均で 4.44 である。



● アンケートに寄せられた受講者のコメント

- 短い講義時間の中に、事業を実現するポイントが明示されていて、大変参考になります。また、自身でピッチとして話すことで、違う角度からの意見が聞けることがとても貴重です。（起業のためのピッチ演習・社会人）
- 知財が企業にとってどれだけ大切で、他の企業に対抗する手段でもあることがわかりました。これからは、特許についても意識してみようと思いました。（起業のための知財概論・学生）
- 異なる背景を持つ方々とデザイン思考のプロセスに則り意見交換をできて、非常に面白かったです。（デザイン思考と UX 実習・学生）

【まとめ】

学外の講師による幅広い視点での講義及び実習で、受講者の満足度も高く、充実した講座であった。本学ホームページ及びPeatix、YOXOカレッジホームページで募集を行い、twitter、Facebookでも告知を行ったが、実際の流入経路は「大学教員からの紹介」「友人知人からの紹介」が合わせて73%であり、これらネットメディアの有効活用をさらに図る必要があると感じた。一方で、受講後アンケートによると、受講生の「起業に興味がある」「将来起業を考えている」割合は合わせて89%であり、講座の狙いに沿った募集が出来ていたと考える。

募集開始（21年10月）から最終講義（22年2月）まで間隔があり、後半の講座の受講歩留まりがあまり良くなかったのが来年以降に向けた課題と考える。

YOXOカレッジについては2022年度も継続開催を予定している。

(2) シュタインバイス大学日本研修

シュタインバイス大学 The School of Management and Technology MBE (Master of Business and Engineering) 日本研修の狙いは、課題提供企業から出された海外進出などに関するリアルタイムの経営課題に対して、日独共同のチームで具体的な解決策を提案するグループワークに取り組むことで、国際的なチームワークを疑似体験するとともに、異文化間コミュニケーション・交流を実践する機会とすることであり、このため毎年夏期（本研修9月）、冬期（本研修3月）の2回開催されている。従来はドイツより学生が来日し直接交流する形式であったがコロナ禍の影響で来日が困難となり、日本側の事前研修を含め全てオンラインでの開催となった。

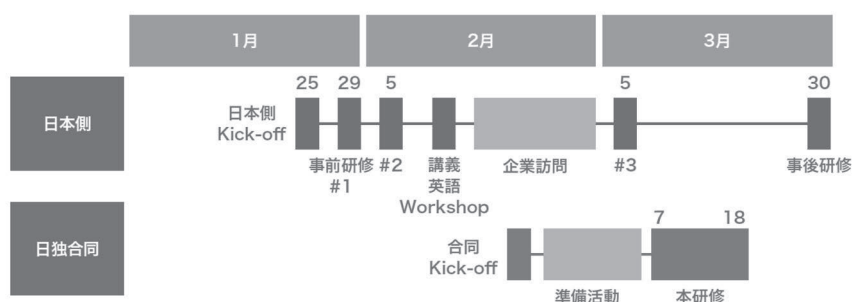
日本側は東京農工大学が中心となり、本学含む複数の大学が協力して日本チームを形成している。本学においても、当センターが主体となって学生を募集し、この研修に協力する形で参加している。今年度は本学2名（理工学部4年、都市イノベーション学府M2）が参加し、うち1名はパキスタンからオンライン参加した。

【プログラム概要】（夏期（本研修9月）、冬期（本研修3月）共通）

- ・キックオフ（1日）
- ・事前学習：技術系に不足するビジネス分析手法や企業戦略の枠組みについて学ぶ（3日）
- ・事前調査：課題提示企業の技術者から、課題に関して事前に話を聞く（1日）
- ・本研修：グループワーク及び最終プレゼンテーション（12日）
- ・事後研修：研修成果や反省点の共有（1日）

※下図は2021年度冬期（本研修3月）のスケジュール

日本研修の全体スケジュール 事前研修～事後研修



本学からの参加実績

2017 年度	3 名
2018 年度	5 名
2019 年度	4 名（夏期 3 名、冬期 1 名）
2020 年度	6 名（夏期 4 名、冬期 2 名）
2021 年度	2 名（夏期 0 名、冬期 2 名）

Ⅲ. ベンチャービジネス支援事業

1. ベンチャー支援施策『フェーズⅠ』、『フェーズⅡ』

ベンチャービジネス支援事業では、組織の前身であるベンチャー・ビジネス・ラボラトリー（VBL）時代からの取り組みにおいて、本学ポスドクを中心に10社を超えるベンチャーの起業を支援してきた。また、社会的課題解決に取り組む起業支援や、理工系の教員に呼びかけて大学内の研究シーズによる学内ベンチャーの創出を推進するなどの取組を行ってきた。昨年度はコロナ禍の影響で活動を中断していたが、今年度は次のようなスキームで事業を展開した。

○フェーズⅠ（1年）：学生のベンチャー構想作り支援

ベンチャーマインド旺盛な学生・ポスドクを対象にビジネスプラン開発の支援を行う。

○フェーズⅡ（1～2年）：創業間近の大学発ベンチャー支援

法人化を検討している学生や教員を対象に法人設立準備の支援をする。

今年度はフェーズⅠに6件、フェーズⅡに1件、計7件の応募があり、プレゼン選考の結果、フェーズⅠ・3件、フェーズⅡ・1件の計4件を採択した。

フェーズⅠ支援対象者

	氏名	タイトル	担当教員／アドバイザー
1	渡辺 洋平 /経営学部3年	Deervery 事業	船場 ひさお
2	盛一 志仁 /理工学府修士2年	「体験型」建築設計ツール	為近 恵美
3	中野 賢伸 /経済学部3年	音声型 史跡情報サービス”ぐるり”	望月 雅之／小清水 実 (先端科学高等研究院)

フェーズⅡ支援対象者

	氏名	タイトル	担当教員／アドバイザー
1	本橋 永至 /国際社会科学研究院 准教授	AIを活用した知財リーガルテック	為近 恵美／横尾 泰 (研究推進機構)

以上の通り、本年度は複数の案件の応募/採択があり、担当教員・アドバイザーの支援の下活発な活動が行われ、2名の起業者（法人設立）を輩出した。

● 株式会社 FineMetrics

神奈川県横浜市 2021 年 11 月設立 取締役・本橋 永至

● ディアベリー株式会社

神奈川県横浜市 2021 年 12 月設立 代表取締役・渡辺 洋平

また実際に応募があった案件以外にも学生からの相談に乗る等、センターとして大学発ベンチャーの推進を行っている。

2. ベンチャー支援採択者その後の活躍

●横浜バイオテクノロジー株式会社 小倉 里江子(博士学生研究員 / 2010 年度ポスドクアントレプレナー)

植物バイオ技術を基に、環境調和型農業に貢献する資材(植物活性化剤、抵抗性誘導剤、バイオスティミュラント等)を探索・評価する受託サービス事業

<受賞歴>

横浜ビジネスグランプリ 2019 最優秀賞 / Japan Challenge Gate2020 ファイナリスト

●サグリ株式会社 坪井 俊輔 (2017 年度フェーズⅠ、2018 年度よりフェーズⅡ支援)

「衛星データから農地土壌の化学性評価を実施し、農業課題を解決」

<受賞歴>

第三回日本アントレプレナー大賞(サイエンス部門)、Singularity University Japan Global Impact Challenge2019 優勝、日本経済新聞 NIKKEI AG/SUM2019 優勝、EO GSEA 関西大会 優勝・日本大会 最優秀賞・世界大会 Innovation Award 受賞、リアルテックベンチャーオブ・ザ・イヤー2021 受賞、東洋経済 2021 すごいベンチャー100 認定、農林水産省 農林水産技術 大学発ベンチャー 認定(2021 年)、近畿経済産業局 J-Startup KANSAI 認定(2021 年)、環境省 環境スタートアップ大賞「環境スタートアップ事業構想賞」受賞(2022 年)

3. 他のベンチャー支援プログラムとの連携

起業支援に関わる外部連携、地域連携の一環として、神奈川県に関連団体が主催する「かわビジネスオーディション 2020」において、センター教員が評価機関として審査委員を務めた。今後も、学内のシーズを掘り起こし、本施策と内外の起業支援施策を併用しながら学内ベンチャーの推進を心がけ、起業活動の活発化を志す。

IV. ドクターキャリア開発事業

1. 活動全般

当センターでは、ドクターキャリア開発事業として、博士の学位を取得したドクター人材が、アカデミアだけにとどまるのではなく、ベンチャー企業を含む民間企業など幅広く社会で活躍できるよう、人材育成と多様なキャリアパスの提示を目指したキャリア支援事業を行っている。本事業は、当初 2012 年度より 4 年半に渡り、文部科学省の補助金

(JST 委託) を受け『ポストドクター・キャリア開発事業』として実施してきた。ポストドク研究員に企業に目を向ける機会を与える長期インターンシップや、グローバルキャリア開発研修、社会に出て通用する様々な研修としてリーダー養成講座などを行ってきた。補助金の終了した 2017 年度以降は、本学内のニーズに合わせるため、主な対象をポストドクから博士課程後期（博士）の学生にシフトし、事業内容の見直しと効率化を図ることで、自立後継事業として継続してきた。

このような活動は、全国の大学で様々な形で実施しており、いくつかの大学が、コンソーシアムとして協力体制を取っている。本学も北大を中心とする「連携型博士研究人材総合育成システム」に参画し、年に数回の専門委員会で意見交換し、互いのイベントに学生の参加枠を設けて相互乗り入れをしている。「連携型博士研究人材総合育成システム」の参加大学は、北大、東北大、名古屋大、お茶の水女子大、横浜国大、立命館大、兵庫県立大、阪大、OIST、神戸大、筑波大、新潟大の 12 大学である。

この事業の一環として、2015 年度より博士人材と企業とのマッチングイベント「キャリアパスフォーラム」を本学主催で開催している。また、このイベントをより広く学生に知らせ、有意義なものにするため、様々な施策を行ってきた。今年度もコロナ禍の影響で例年通りとは行かなかったが、学内イベントとしては、オンラインによるメリットを活かして、外部講師による博士向けキャリアセミナーや各種交流会、業界研究セミナーなど、これまでとは異なる施策も実施した。

なお、本部門が実施した広報・相談活動は、以下の通りである。

・**オンライン説明会**：当センターが行う博士向けキャリア支援事業について、新入学および在学の博士課程後期生に対し Zoom によるオンライン説明会を行った。授業支援システムを通じて広報し、4/8(木)に 2 回（2 回目は 1 回目の録画配信）実施、合計 41 名が参加した。

・**D キャリ情報版**：登録者に対して、博士向けのインターンシップや企業情報、イベント情報などを不定期にメールで配信。今年度は 55 報および号外 1 報を発行した。

・**ドクターキャリア相談室**：主に博士の就職相談や、博士進学に迷う修士などの相談に乗る大学院生向けの相談室を毎週水曜日の 2・3 限に開設した。実際には、事前にメールで予約を取り、相談者の都合に合わせて、面談をオンラインにて実施。面談は、企業の研究

開発部門での経験のある実務家教員として、ドクターキャリア開発担当の教員が基本的に2名で対応する。今年度は、通算4件の相談があった。

2. キャリアパスフォーラム

日時：2021年10月30日（土）13：00～18：00

方法：Zoomによるオンライン開催

狙い：参加企業への自己アピール能力向上、将来の進路に対する視野を広げる（学生）

企業・研究機関が求める人材像の把握、ネットワーキング・関係作り（企業）

内容：【事前】

- ・企業紹介動画等視聴（学生）
- ・学生プレゼン資料閲覧（企業）

【当日】

- ・博士のプレゼンセッション（学生毎 Zoom ブレイクアウトルーム活用）
（設定面談：8分×10回、自由面談：15分×1回）
- ・個別相談会（会社毎 Zoom ブレイクアウトルーム活用）
（設定面談：15分×6回、自由面談：20分×1回）

参加企業（15社、五十音順）：

ウエスタンデジタル、 AGC、 京セラ、 コニカミノルタ、 住友金属鉱山、
テクノデータサイエンス・エンジニアリング、テクノプロ テクノプロ・R&D 社、
テルモ、 東京エレクトロン、 東京都立産業技術研究センター、 とめ研究所
日本入試センター、 日立ハイテク、 PwC コンサルティング、
マイクロンメモリジャパン

参加者数：

博士課程後期生、ポスドク研究員 30名（内、本学14名）

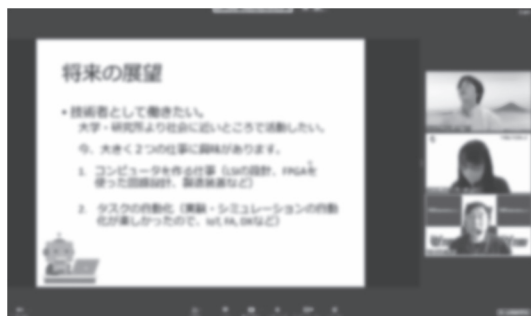
企業 34名



佐土原機構長による開会のご挨拶



メインルームでの参加者の様子



学生のプレゼンセッションの様子



企業の個別相談会の様子

通算8回目となる本イベントであるが、昨年度に引き続き今年度もコロナ禍であることを考慮してオンラインでの開催となった。このため、ポスターを使用した対面による研究内容説明や自己アピールが、パワーポイントファイルによるリモート説明に切り替わるなど、やや臨場感の欠ける側面はあったものの、「自分が全く知らなかった企業や業界について知ることができた点や、企業ごとの考え方を知る機会となり、自身について色々と考えるきっかけとなった」「採用したい博士と出会えた。事業や職種に興味を持つ博士に自社広報が出来た」など、プラス面のコメントが数多く寄せられた。

3. キャリアセミナー「博士キャリアの現実と就職戦略」

日時：2022年2月25日（金）13：30～15：00

方法：Zoom によるオンライン開催

講師：東北大学特任教授 大学院生命科学研究科キャリア支援室アドバイザー 増沢 隆太氏

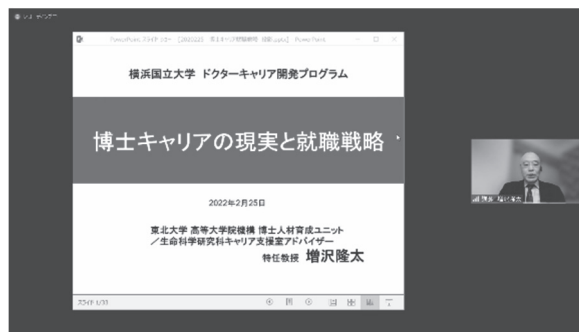
狙い：博士あるいは博士課程を目指す修士の学生に、博士号取得後のキャリア形成について考えるきっかけを与え、早めの準備に着手してもらう

参加者数：

全33名（修士：15名、博士：18名）：全て本学学生



講師：増沢教授



セミナーの様子

外部講師によるキャリアセミナーの開催は初めての試みだったが、参加者が 33 名と比較的多く、博士のキャリア形成や就職活動に対する関心度が高いことが判り、有意義であった。また、修士課程の学生が全体の約半数を占めており、今回のようなセミナーが博士後期課程進学のかっけになる可能性を示唆した。

4. 共催イベント

昨年度に引き続き SEAJ（一般社団法人 日本半導体製造装置協会）との共催により、半導体製造装置業界の概要や最新技術動向、将来展望などを学部生・大学院生に広く知ってもらおう狙いで、業界研究イベントを開催した。

イベント名： 若手技術者が経験を語る～半導体関連メーカー特集 2022～
日時： 2022 年 1 月 27 日（木）16：20～18：10
方法： Zoom によるオンライン開催
当日プログラム 16:20～ 開催挨拶
16:22～ 業界概要紹介
16:31～ 参加企業からのショートプレゼン（3 分×5 社）
16:55～ ブレイクアウトルームでのルームプレゼン（15 分×3 セット）
17:50～ フリータイム（20 分）
参加企業： 5 社（キャノン、ニューフレアテクノロジー、東京エレクトロン、日立ハイテク、ニコン）
参加者数： 37 名（本学 21 名、他大学 16 名）

昨年度は参加企業数が 11 社と多く、参加学生は 30 名弱と少なかったため、訪問者なしのブレイクアウトルームも散見し、やや盛り上がり欠ける面もあったが、今年度は 5 社に対し 37 名の参加であったためバランスも良く、参加企業・学生共、満足度の高いイベントとなった。

5. コンソーシアム活動

コンソーシアムでは、各大学で主催するプログラムを相互に共有することで、博士人材に多種多様なセミナー・交流会参加の機会を提供している。今年度は他大学から 60 件のプログラムが共有された。対面開催のイベントもあったが、新型コロナウイルス感染拡大状況を鑑み、本学ではオンライン開催の共有プログラムのみ案内した。今年度の本学学生参加状況については以下の表の通り。

No.	主催	タイトル	開催日	YNU 参加 者数	内、 留学 生数	参加者詳細 (人数)
1	北海道大学	キャリアマネジメントセミナー（全15回）	4/19～視聴期限 9/2	2	0	環境 D2(1)、 D3(1)
2	東北大学	イノベーション創発塾 (2021年度前期)	5/18～ 7/13 毎週 (火)	1	1	理工 D3(1)
3	北海道大学	『企業に聞く 活躍する研究者が持つスキル、研究者に求めるスキル』セミナー	6/1	1	1	国社 D2(1)
4	立命館大学	キャリアマネジメントセミナー（全9回）	5/18～ 11/30 毎 週(火)	2	0	理工 D1(1)、環 境 D2(1)
5	北海道大学	2021年度理系・科学技術系 大学院生のステップアップ キャリア形成1 -Advanced COSA(1)-	6/23,24	1	0	環境 D2(1)
6	北海道大学	2021年度心をつかむ超言葉 術	7/7	2	1	国社 D3(1)、理 工 M2(1)
7	新潟大学	ジェネリックススキルセ ミナー：ビジネスマナー	7/28	2	2	国社 D2(1)、理 工 D4(1)
8	東北大学	博士・ポスドクのための キャリアセミナー	7/15	1	0	理工 M2(1)
9	名古屋大学	第11回 企業と博士人材の 交流会	7月～10 月	1	0	環境 D2(1)
10	北海道大学	研究力+好印象=魅力 up↑ セミナー	8/24	1	0	都市 D2(1)
11	北海道大学	第48回赤い糸会	2022/1/17 (月)～ 1/24 (月)	3	1	理工 D2(1)、都 市 D2(1)、 D3(1)
12	北海道大学	CAREER LINK MEETUP (赤い糸 ONLINE 英語版)	11/30	6	6	理工 D3(3)、 D2(1)、都 市 D3(1)、 D2(1)
13	新潟大学	大学院生のためのキャリアセ ミナー2021	11/19	2	1	理工 D2(1)、都 市 D3(1)
14	北海道大学	英語論文執筆セミナー 「Manuscript Writing for Researchers」	12/15	6	2	理工 D1(2)、 D2(1)、 D3(1)、工 D3(1)、環 境 D3(1)
15	新潟大学	『大学院生のためのキャリア セミナー2021』の動画公開	公開期間 ～3/31 17:00	2	0	理工 D1(2)

16	東北大学	4月から会社員になる学生のための『会社に入ってからのキャリア講座』	2/21	4	0	直接申し込みのため人数のみ情報拝受。
17	北海道大学	Essential Tips for Writing a Grant Application	3/10	2	2	理工 D1(1)、工 D3(1)
18	北海道大学	マインドフルネス入門セミナー～セルフケアと自己探求～	3/2	2	1	国社 D1(1)、理工 D3(1)
19	北海道大学	日本だけが活躍の場じゃない！！在米日本人研究者のリアル	3/8	2	0	理工 D1(1)、都市 D3(1)
			計	43	18	

YNU 横浜国立大学

地域連携推進機構
成長戦略教育研究センター